

レポーター：福岡市美術館は福岡市の都心の公園として市民の憩いの場所である大濠公園の中にあります。1979年に近現代美術や古美術などを常設する美術館として開館しました。大濠公園の水と緑に映えるブラウンレッドの建物は前川國男の設計です。ダリやミロ、シャガールなど世界的な巨匠や、黒田清輝、青木繁、坂本繁二郎ら九州出身の画家の作品、古美術では重要文化財を含む、茶道具、仏教美術、旧福岡藩主・黒田家の美術品など合計 14,000 点以上を収蔵しています。

レポーター：学芸員の山口さんです。よろしくお願いします。

学芸員：よろしくお願いいたします。

レポーター：この作品、すごくインパクトのある作品ですよ。どういった方の作品なんですか。

学芸員：関西に今、住んでいらっしゃる中ハシクシゲさんという方が作られた作品です。

レポーター：いつごろに作られた作品ですか。

学芸員：1993年になりますね。もう、ずいぶん前のものですかね。

レポーター：この像はどういった思いと言いますか、どういった意味があるんですか。

学芸員：まず、このお相撲さん、どなたかわかりますか。

レポーター：いや、だれでしょう。

学芸員：今、外国人の力士ってすごく多いですよ。

レポーター：はい。

学芸員：その先駆者の一人が小錦ってもう引退しちゃいましたけど、相撲は日本の国技だと日本人はみんな、外国の人もみんなそう思ってるんですけど、実際、今、外国人なしで、今もうやっていけないような状況ですよ。この作品全体をみましたら、実は部分的なモチーフ、松だったり塀だったり、こうした三方だったり、それから力士というのはすべてその日本を連想させるものなんですけど、後ろの塀は竹のように見えますけども、これ金属でできていますね。

レポーター：金属に竹の絵をかいている形になるんですか。

学芸員：竹の形に造形をして、その上から色を塗って、それから隣の方の松が見えますけども、これも全部鉄と針金で、銅の針金でつくられています。こういう風にその日本的なだけでも、どこか日本からちょっとだけずれているような彫刻をずっと中ハシさんは作ってらして、まあ彫刻っていうのは、そもそも日本にあるオリジナルのものじゃなくて、西洋から入ってきたものなんです。それまで日本には彫刻じゃなくて工芸だったり彫り物、そういうものがたくさんあったわけですけども、彫刻というものが美術に入ってきたとき彫刻と呼ばれるものができて、だから

明治以降のちょっとした短い歴史しかないその中で、日本的な彫刻っていったいどうやったら創れるんだらうかっていうことを、日本的な題材を用いて制作している、そういう作者なんですね。

レポーター：そうなんですね。